

令和3年度 事業報告

近年の青果物をめぐる情勢は、生産現場の担い手不足に加え、異常気象や鳥獣害などの栽培環境の不安定化により、ますます厳しさを増している。また、前年から続くコロナ禍により、加工業務用野菜の需要は引き続き低迷し、これまで活発であった巣ごもり・家庭内消費も落ち着きが見られた。

本県産の生産・販売を振り返ると、生産面では春先の低温や夏場の天候不順など、果樹関係を中心に一部の品目で影響は見られたものの、集中豪雨や台風上陸などの大きな気象災害も無く、特に秋以降は好天が続いたことで、多くの品目で前年を上回る数量となった。

一方、販売面では、コロナ禍によって野菜全般に荷動きが鈍い中、裏年で極端に少ない出回りとなった「タケノコ」や競合産地の不作・気温高で好環境が揃った「すいか」などは高値相場となったものの、全国的に潤沢な出回り量が続いた「ダイコン」「白ネギ」「葉物類」などは終始相場は低迷し、特に「カボチャ」は輸入品の出回り増も相まって近年にない厳しい販売環境となった。

これらのことから、本制度対象となる野菜類（果実的野菜、菌茸類を含む）の当年度共販実績は、出荷量 24,214 t（前年比99.9%）、販売単価 229円/kg（前年比103%）、販売金額 5,545百万円（前年比102%）となった。

こうしたなか、交付金の支出については、一般業務のちんげんさい・千石豆・なす・トマト・きゅうり・キャベツ・だいこん・ねぎ・にんじんで1,035千円（前年同期503千円）、特定業務のこまつな・かぼちゃ・夏ねぎ・夏秋トマト・ミニトマト・夏秋きゅうり・秋冬だいこん・秋冬ねぎで6,722千円（前年同期5,237千円）となった。